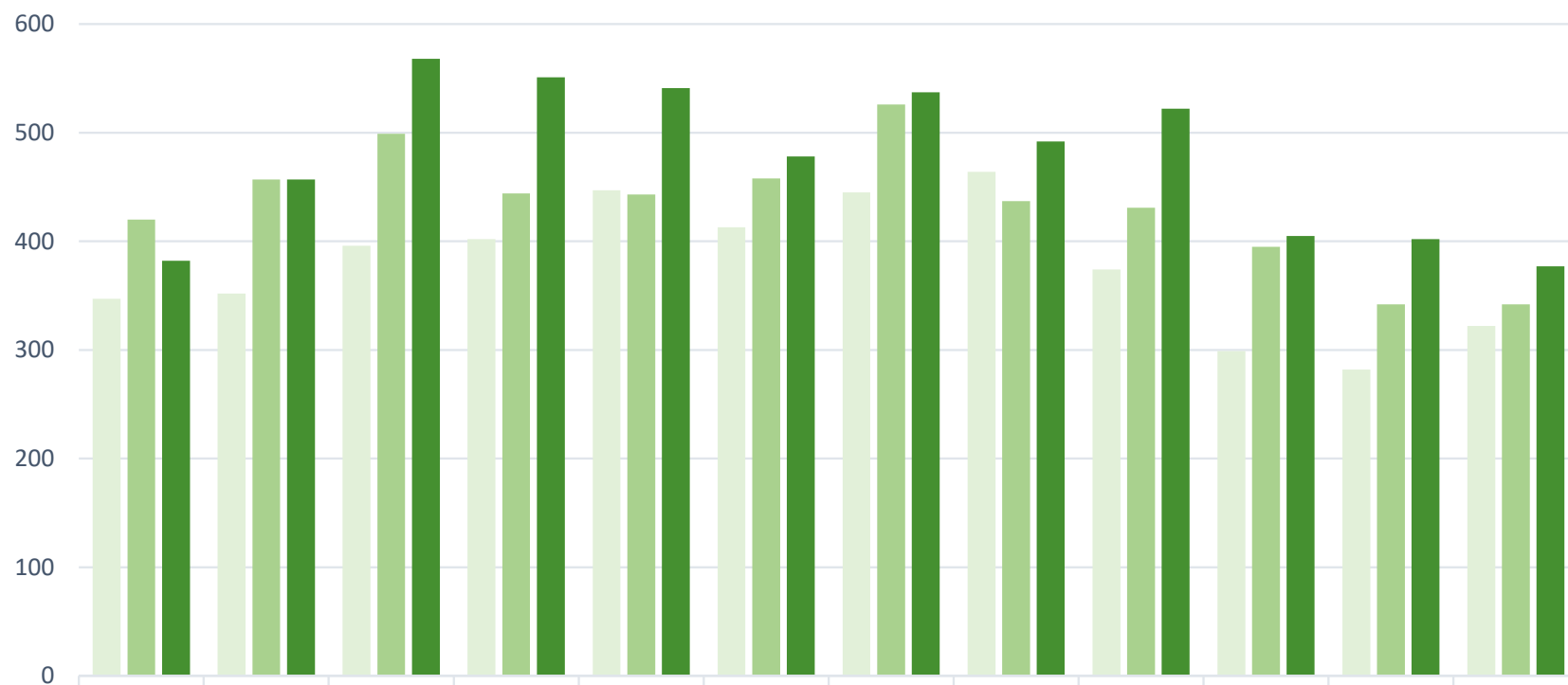
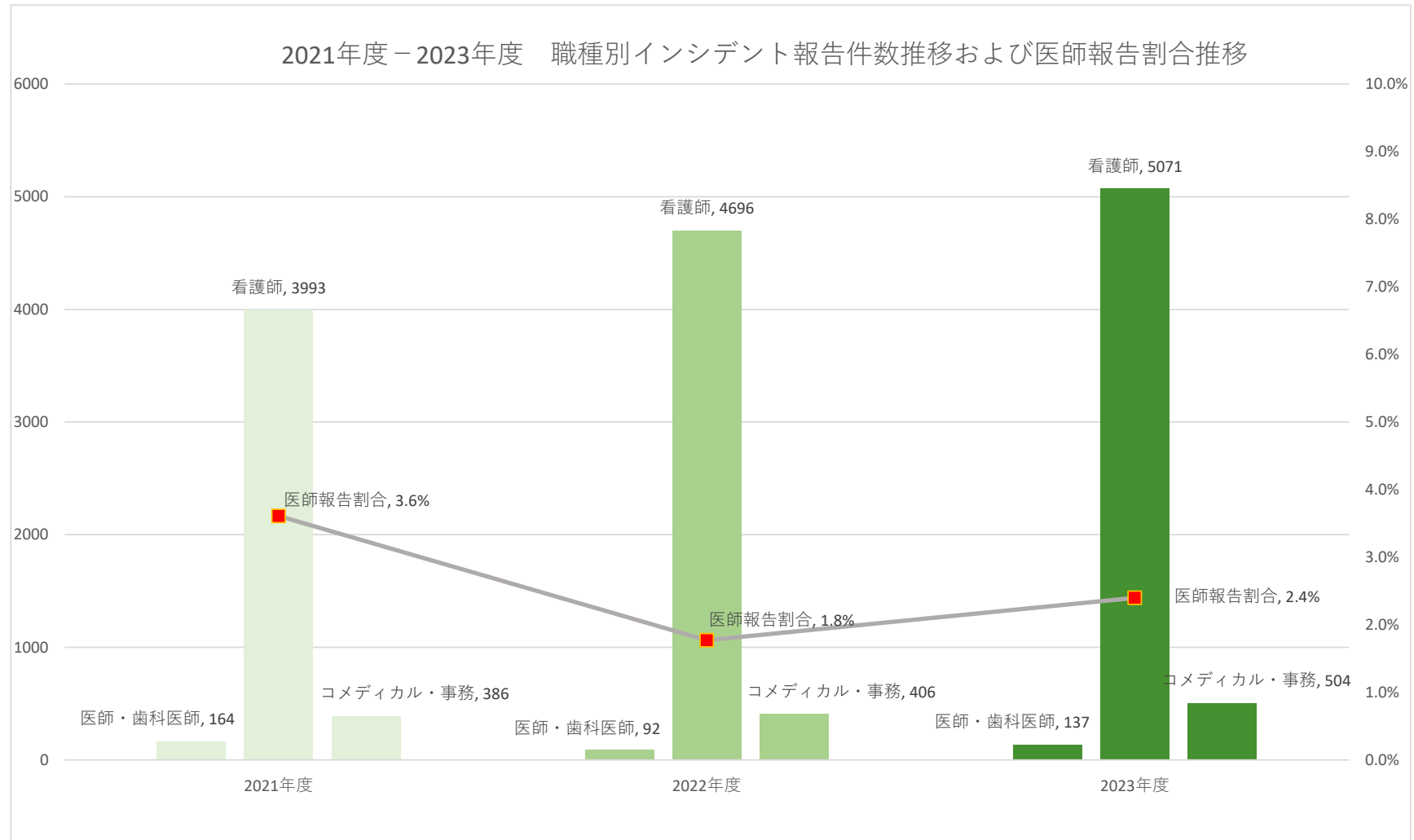


2021年度-2023年度 月別インシデント報告件数推移

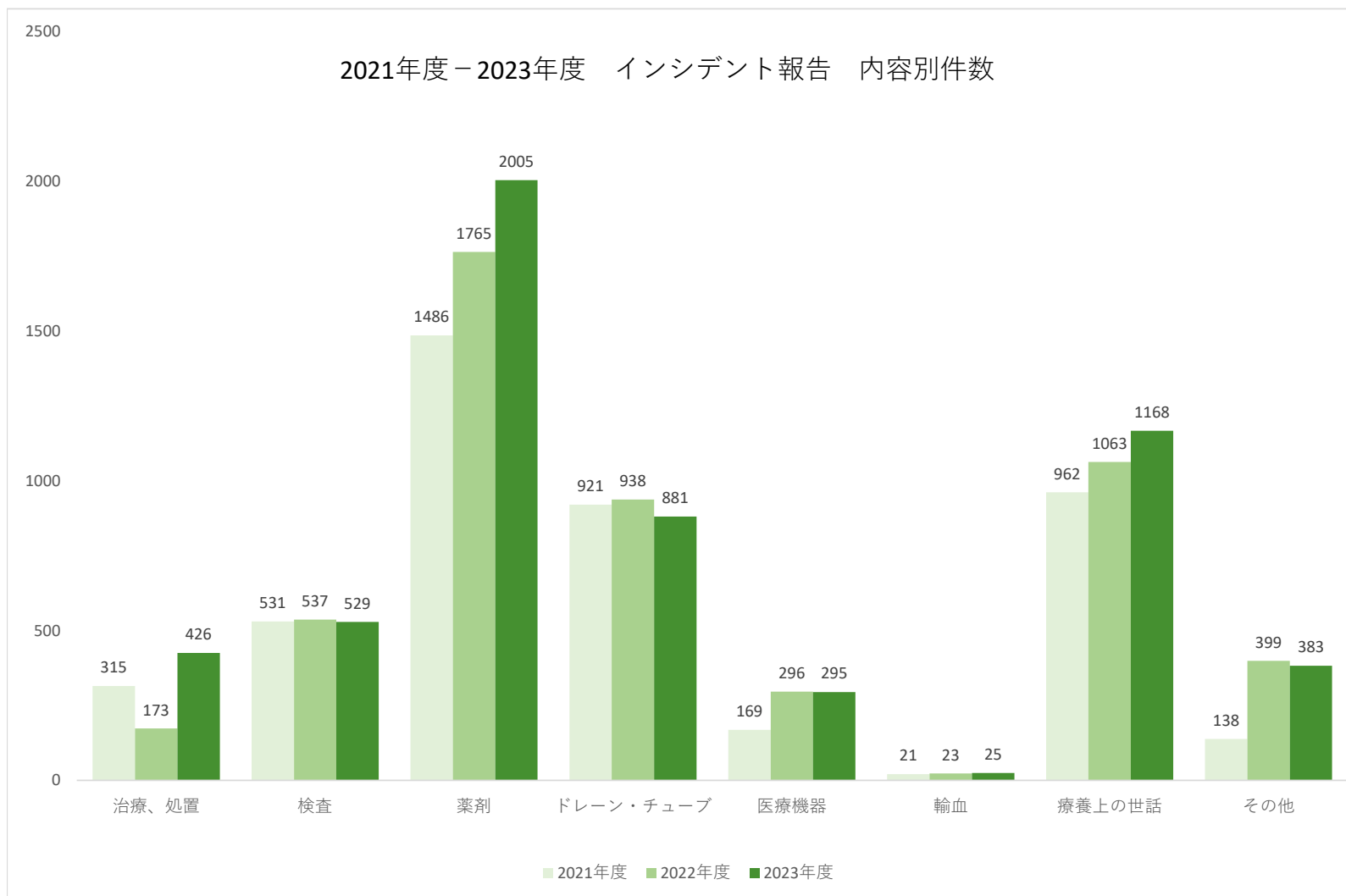


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年度	347	352	396	402	447	413	445	464	374	299	282	322
2022年度	420	457	499	444	443	458	526	437	431	395	342	342
2023年度	382	457	568	551	541	478	537	492	522	405	402	377



看護師のインシデント報告数は全報告数の8割を超え、有害事象の有無に関わらず気になったことを報告する習慣が身についています。医師のインシデント報告数は全報告数の10%程度が望ましいが、当院では5%以下が続いていることから、病院としてこの割合を引き上げるよう、報告方法を簡易的にするなど、対策を検討しております。

一般的に、全インシデント報告数は病床数の5倍であり、そのうちの1割以上が「医師からのインシデント報告」であることが「医療安全の透明性の目安」と言われています。
2023年度も、病床数（963床）の5倍以上のインシデントレポートが提出されています。



【指標の説明】

インシデント報告、内容別の件数です。

薬剤に係るインシデント報告が多く見受けられますが、全てのインシデント報告は「未然に防げた」報告が多く含まれているため、「インシデント報告件数の多さ」＝「危険」というわけではありません。

むしろ誤投薬や誤飲を未然に防ぎ、患者さんには正しい薬が届いています。各病棟で業務に当たる薬剤師もいるため、患者さんに薬剤が渡るまでに多くの眼でチェックしています。

療養上の世話についても、看護師が気付いた点やこのまま進めると危険であるという行為について報告を上げ、関係者に周知し注意喚起を促す材料にもなり得ています。